

# ふじおか

令和6年3月 発行

## 令和5年度 藤岡ブロック小中一貫教育を振り返って

藤岡ブロック小中一貫教育推進委員会委員長 鈴木 龍一

今年度は、栃木市小中一貫教育の第3ステージの第1年次でした。昨年度藤岡第一中学校・第二中学校が統合、藤岡中学校誕生を機に、藤岡ブロック小中一貫教育計画を見直しました。コロナ感染症の5類への移行により、今年度は様々な制限が緩和され、児童生徒が生き生きと活動する様子を保護者の皆様にご覧いただける機会が増えました。普段の授業だけでは見られない子どもたちの笑顔や真剣な表情を見ることができました。

今年度も学習指導・児童生徒指導・健康安全指導の3部会と推進委員会、全体研修会により小中一貫教育の推進に努めてきましたが、令和5年度の藤岡中の学校評価では、小中一貫教育の目標や取組を「よく知っている・知っている」と回答された保護者の方は59%で、令和4年度と同じでした。「一貫教育が行われていると感じている」と回答された方は約65%で、何かしら感じるもののその目標や取組については十分お伝えできていないと反省しています。今年度の取組について3指導部会の取組を中心に、この小中一貫教育だよりで紹介しますので、ご一読いただければ幸いです。

また、3指導部会とは別に、栄養教諭と図書館事務職員のコラボで本に出てくる料理の給食提供、事務職員による教材費等の保護者の負担軽減のためのブロックでの共同購入など、各担当者の主体的な取組もありました。こういった教職員の活動も今後発信していくことで、藤岡ブロックの小中一貫教育推進の様子もご理解いただけると考えています。

### 小中合同教職員研修(R5.8.4)

夏季休業中に藤岡地区の小中学校の教職員が一堂に会して、研修を行なった。

午前中はスクールカウンセラーによるQUTテストについての研修と、各指導部会ごとに1学期の取組についての振り返りと今後の方向性の確認等を、午後には外部講師による人権教育に関する研修を行なった。

講師に積極的に質問をしたり互いに意見交換をしたりして、猛暑に負けないくらい“熱い”研修となった。



### <学習指導部> 令和5年度重点目標

**知** いろいろな人と一緒に学びながら、自分の目標を達成したり疑問を解決したりしていく

#### ◆ 主な実践内容 ◆

各教科で、学習の形態を工夫したり考えを発表する場を設定したりすることで、友達同士で自分の考えや思いを伝え合う授業を展開し、子供たちの学び合いを促進した。友達同士様々な場面で意見を伝え合いながら学習に向かうことで、児童生徒が自分の意見を表現できたと感じられるようになった。また、情報を活用して課題を解決する学習を教職員が意識して授業に取り入れ、児童生徒が課題解決に必要な情報の収集や取捨選択などを適切に行えるよう努めた。

#### ◆ 成果と課題 ◆

〔成果〕「思いや考えを伝え合うことができた」と肯定的に捉えている児童生徒の割合が80%となり、その中で「よく当てはまる」と感じている児童が45%と半数に近づいた。

〔課題〕「思いや考えを伝え合うことがあまりできなかった」と捉えている児童生徒がわずかだが増加した。友達との関わり合いに対して苦手意識をもつ児童生徒への支援や、教師が話し合いの視点を明確にもって話し合わせる取組など、新たな手立てを講じる必要がある。



三鴨小学校 『算数科の授業』



赤麻小学校 『国語科の授業』

## ＜児童生徒指導部＞ 令和5年度重点目標

### 徳 みんなのいろいろな考えを大切にしながら、話し合って決め、力を合わせて実行する

#### ◆ 主な実践内容 ◆

今年度は、各校の特色を生かした学校行事や児童会・生徒会活動を通して、一人一人のよさを認め励ましていくための指導の工夫や改善を図った。そのために、児童生徒が話し合ったり、協力し合ったりする機会を意図的に設けた。具体的な取組として、小学校においては、縦割り班活動を生かし、その中で、友達よさや頑張りを見つけ、言葉にして伝えたり、振り返りを行ったりした。また、学校行事において、児童の主体性を重んじた活動を展開し、協力して成し遂げる中で、互いに認め合えるように支援した。中学校においては、学級対抗で取り組む行事や縦割り活動となる文化祭等を生かし、生徒同士で教え合ったり高め合ったりしていけるよう支援した。

#### ◆ 成果と課題 ◆

〔成果〕教師の働きかけによって、互いのよさを見つけ、認めていこうとする態度が、児童生徒の中に育まれていったと考えられる。児童生徒の「学校生活に関するアンケート調査」の「友達と頑張りをも認め合うことができたか」について、肯定的な回答が、全校で90%を超える結果となった。

〔課題〕年間2回の「学校生活に関するアンケート調査」の結果を比べた際に、否定的な回答をしている児童生徒の割合に、大きな改善が見られなかった。そのため、誰一人として置き去りにしない教育の実現のために、個々の児童生徒の成長に目を向けてよさを認め励ましていく教育活動を教師が手本となって、更に充実させていくことが必要と考える。



藤岡小 『創立150周年記念運動会』



藤岡中 『藤華祭(文化祭)』

## ＜健康安全指導部＞ 令和5年度重点目標

### 体 自分の心や体の健康と命を守るための行動や運動を続ける（習慣にする）

#### ◆ 主な実践内容 ◆

長期休業後、生活リズムを整えるために『健康週間』を設定し、睡眠や朝食、運動等について毎日アンケートを実施し児童生徒の実態を把握した。また、今年度は養護教諭部会で作成した健康に関する啓発動画の視聴を行い、児童生徒は自分の生活リズムを振り返り、見直すきっかけとした。

体育の授業では、児童生徒が自分で目標を立て、課題意識をもって運動できるよう学習カードを工夫した。小学校では、委員会の児童が中心となり、運動への意欲や体力の向上を目的とした企画を開催した。中学校でも部活動や体育祭とは別にレクリエーションとして大縄跳び大会を実施した。また、クラス対抗ではなく自分への挑戦という形で持久走大会を実施したが、互いに励まし合う生徒の姿がどの学年でも見られた。

#### ◆ 成果と課題 ◆

〔成果〕『健康週間』に行ったアンケートに「健康週間を意識して生活できた」と回答した児童生徒の割合は85%を超え目標を上回った。また、体育の授業では、学習カードの効果的な活用により多くの児童生徒が自分のめあてを立て、運動に取り組むことができた。

〔課題〕健康週間を意識することや自分のめあてをもって運動に取り組むことに対して否定的な回答をしている児童生徒の割合に、大きな変化が見られなかった。今後も生活習慣についての適切な指導支援や目標をもちながら楽しんで運動する授業づくりの研究を行っていく。



部屋小学校 『バランス綱引き大会』



藤岡中 『校内持久走チャレンジ』